

小型両生類・爬虫類（カエル、トカゲ、ヘビ）化石の分類学的研究

自然・環境評価研究部 地球科学研究グループ

池田 忠広



1. 兵庫県篠山層群産カエル・トカゲ類化石

下部白亜系篠山層群からは恐竜化石とともに、多数のカエル類、トカゲ類化石が産出しています。これまでの研究の結果、両分類群ともに複数のタイプが確認されており、新種のトカゲ類や新属・新種のカエル類を記載報告しています。未報告の資料も多々あり、今後も継続的に研究を進めることで、白亜紀におけるカエル類やトカゲ類の多様性や進化過程の解明に寄与したいと考えています。



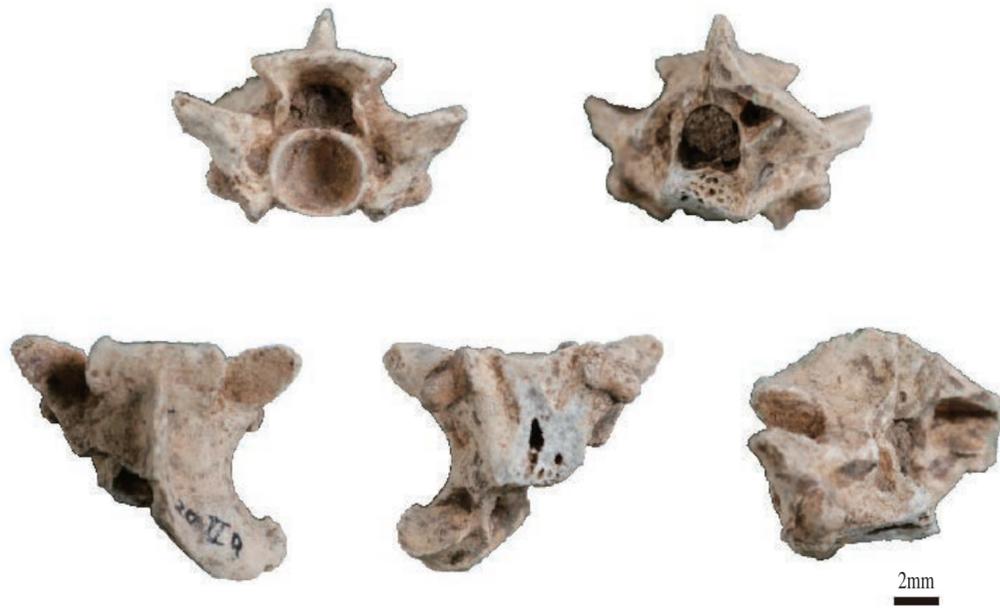
2016年に報告した新種のトカゲ
Pachygenys adachii (パキゲニス・アダチイ)



2016年に報告した新属・新種のカエル
Hyogobatrachus wadai (ヒョウゴバトラス・ワダイ)

2 琉球列島産ヘビ類化石・遺骸

琉球列島の各島々に分布する更新統（主に上部：数万年前）堆積物からは、多くの動物化石とともにヘビ類化石が発見されています。これらの化石の多くは遊離した椎骨で、何のヘビなのか判断することは非常に困難でした。そこで私は多くの現生種の情報を集め整理し、それをもとに化石の分類を行ってきました。近年は、化石以外に遺跡から産出しているヘビ類遺骸の研究にも取り組んでおり、面白い研究成果が挙げられています（論文執筆中）。今後も研究を進め、現在でも多くの議論がなされている琉球列島のヘビ類の起源、また同列島の特異な動物相の成り立ちを探る手がかりを提供できればと考えています。



与那国島トゥグル浜遺跡産のヘビ類椎骨遺骸